



第6回企画展

鉱物たちの素顔

— その魅力をさぐる —

Searching for the Wonders of Minerals.

紫水晶(Amethyst)

1996年
4月13日(土)
▼
6月2日(日)

●開館時間

午前9時30分～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

●休館日

毎週月曜日

(但し4月29日(月)、5月6日(月)は開館 4月30日(火)、5月7日(火)は休館、4月29日(月)みどりの日は無料です)

次回企画展 鯨・太古からの使者 1996年7月6日(土)～1996年9月16日(月)

— サメと人との共生を考える —

●入館料

小・中学生 140円(70円)
高・大学生 420円(280円)
大人 700円(560円)

※()内は20名以上の団体料金

この料金には常設展・野外施設入場料が含まれています。



1



2

第6回企画展 鉱物たちの素顔

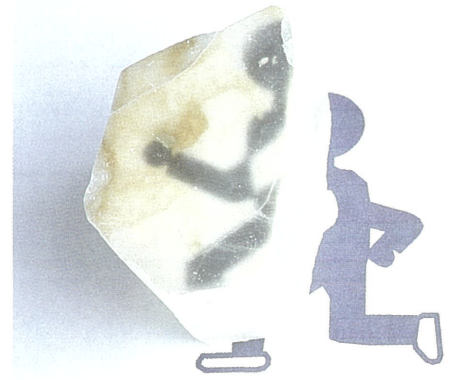
— その魅力をさぐる —
Searching for the Wonders of Minerals.

皆さんは『鉱物』というと、冷たく、薄暗く、私たちの日常からは縁遠い存在のように感じるかもしれません。しかし、鉱物は現代の私たちの生活に深く根ざし、現代文明を蔭で支える存在なのです。

今回の企画展では、実際には身近な存在でありながらあまり省みられることのなかった『鉱物たち』の活躍する姿を紹介しします。まず、私たちの生活空間をふり返ってみましょう。“部屋の中の鉱物”では、鉱物は私たちの日常においても常に意外な顔を覗かせています。一方、“輝きの中の鉱物”では、鉱物の魅力的な表情を見ることができます。また、“人の手による鉱物”で鉱物の人為的応用と未来への展望について紹介しします。

ところで、鉱物は不変不動という感がありますが、実際には様々な物理的、化学的環境のもとで結晶が成長してできたものです。“結晶の成長と個性”“鉱物の不思議”においては、鉱物の内面的で知られざる顔が見られるでしょう。“茨城の鉱物”“南部・小室コレクション”では、いろいろな場所や環境下でできた多種多様な鉱物を目の当たりにすることができます。

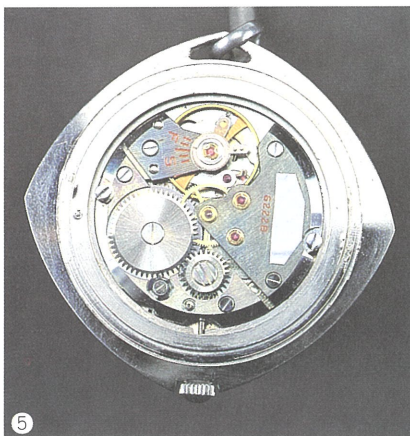
私たちは鉱物を利用することによって現代生活を送っています。鉱物たちの持つ様々な顔……あなたはどのような顔が『鉱物たちの素顔』であると感じられるのでしょうか。



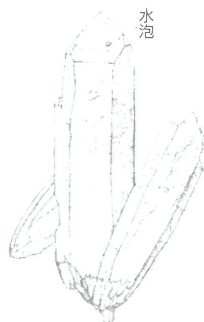
3

展示内容

1. 鉱物のすがた
2. あけほのから現代へーヒトとのかわりー
3. 部屋の中の鉱物ー私たちの生活へー
4. 人の手による鉱物ー人工合成ー
5. 輝きの中の鉱物ー宝石と原石ー
6. 鉱物の成長と個性
7. 鉱物のふしぎ
8. 茨城の鉱物
9. 南部・小室コレクション



5



4 水入り水晶 佐渡鉱山 明治末期産



6

1. 黄水晶[Quartz(Sitrin)]
2. クンツァイト[Kunzite]
3. ウレックス石[Ulexite]
4. 水入り水晶(南部氏によるスケッチ画)
5. 時計の構造(軸受けに使われている合成ルビー)
6. コランダム(ルビー)[Corundum(Ruby)]

